

平成 15 年度

大台ヶ原ニホンジカ保護管理検討会

－ 植生モニタリング調査ワーキンググループ －

2004 年 (平成 16 年) 1 月 22 日 (木) 13:30～17:10

京大会館 219 号室

◆出席者

(1)ワーキンググループメンバー

村上興正（大台ヶ原ニホンジカ保護管理検討会 座長）

柴田叡弐（大台ヶ原ニホンジカ保護管理検討会 検討委員）

横田岳人（大台ヶ原自然再生検討会 森林生態系部会 検討委員）

野間直彦（大台ヶ原自然再生検討会 森林生態系部会 検討委員）

(2)関係機関

徳田裕之（環境省自然環境局近畿地区自然保護事務所）

(3)オブザーバー

木村博司（関西総合環境研究センター）

樋口高志（ 同上 ）

(4)事務局

黒崎敏文（財団法人自然環境研究センター）

中島絵里（ 同上 ）

◆検討事項

(1)緊急対策地区

1) 調査場所

- ・基本的に自然再生推進計画調査のプロット地点（6 植生タイプ 7ヶ所）データ利用
- ・緊急対策地区の A2 地区(西大台地区)に、新規下層植生調査プロットを設置する。調査ヶ所は、9 下層植生タイプ 10ヶ所である。

2) 調査内容

- ・自然再生推進計画調査のプロット地点（6 植生タイプ 7ヶ所）においては、自然再生推進計画調査の項目のうち、毎木調査・林床植生調査・実生調査結果をシカモニタリング調査に使用する。
- ・上層木については自然再生推進計画調査結果を利用する。
 - ①毎木調査・剥皮の程度（調査は秋に実施）
- ・下層植生：自然再生推進計画調査（6 植生タイプ 7ヶ所）に下記項目を追加するよう提言する。
 - ①実生調査：プロット内で 20～130cm の個体について個体識別し、食痕の有無とその種（シカ・ウサギ・その他）を分けて記録する。
 - ②林床植生調査：
 - ミヤコザサの稈高計測：ランダムに選択した 50 本について稈高を計る。
 - スズタケの稈高計測：50 本について稈高を計る。ただしコードラート内で不足する場合は枠外でもよく、それでも足りない場合は現場で判断。（一度計測し、その結果を見て再検討する。）
 - ③新たに設定する 12ヶ所についての調査プロット面積は、2m×2mを 5 個、調査項目は自然再生推進計画調査の林床植生調査項目（高さ 1.3m未満の植物の種名・高さ(種別最高値)・被度）と同じ。
- ・上層木の被害調査（環境省実施調査）：これまでの調査を継続する。なお、これまでに環境省調査以外で行われた被害木調査の方法・場所・時期などを整理し、最終的に長期的に実施する場所・方法を定める。

(2) 重点監視地区・周辺部

1) 調査場所

過去に糞粒調査が行われた調査地周辺で実施する。

30m×30m の固定プロットを設置（できれば 1 年以内に設置が望ましいが、2 年間かけてもよい）

2) 調査内容

- ・上層木：調査面積は 30m×30m で固定プロット設定し、毎木調査(高さ 1.3m 以上の樹木(枯死木を含む)について個体識別し、位置・種名・樹高・胸高直径・剥皮状況)を実施する。可能ならプロットの四隅または中心に杭を打つ。個体にナンバリングが困難な場合は行わなくてもよい(民有地が含まれるため)。
- ・下層植生：調査面積は 2m×2m を 5 個程度を基本とする(現地の下層植生状況を見て判断する)。調査内容は、
 - ①植物種リスト作成
 - ②種別の植物高最高値
 - ③種別の被度
 - ④食痕の有無

(3)その他

1)トウヒ樹齢について

樹齢のデータが武田先生の調査以外ない。モニタリングという意味ではなく、現状調査として行うべき。

*モニタリング項目ではないため、環境省に別途検討していただく事とする。

2)剥皮データについて

剥皮についてはデータが古くからあるものは出来るだけ利用する。

*環境省がこれまでに行っていた剥皮データについて、新規剥皮がわかるようにあらためてまとめ直す。(環境省が実施)

3)ササの現存量を算出できれば将来的にデータとして有効ではないか。

柵によってシカが食べることができないササの現存量を出すことも重要、ササを囲って現存量を減らし、シカの餌量を少なくするという柵の設置も有り。金銭的・労力的な余裕があるなら、プロテクトケージを使い、シカの採食量の差を見るとよい。

4)ミヤコザサの稈高分布

シカの土地利用状況・餌場の分散などを把握するため、ミヤコザサの面の把握は必要と思われる。測定点数は、平成 14 年度の自然再生推進事業における調査地点数 212 個(1ha メッシュ数)、和田(1990)の 130 箇所を参考に 200 点程度実施することを提案する。

大台ヶ原シカモニタリング 植生WG検討結果

調査項目	調査実施時期	緊急対策地区			剥皮調査の継続*	重点監視地区	周辺地区	
		東大台	西大台					
		自然再生調査地	自然再生調査地	追加調査地				
上層木	30m×30mの固定プロットを設置	●	●		○	○	○	
	1.3m以上の樹木(枯死木を含む)を個体識別	●	●		○	△***	△***	
	種名・樹高・胸高直径を記録	●	●		○	△***	△***	
	剥皮状況(6段階・面積)を記録	秋	●	●		○	○	
下層植生	2m×2mの小方形区9ヶ所を設置	●	●					
	2m×2mの小方形区5ヶ所を設置			○		△	△	
	1.3m未満の林床植物の種名・種別最高値・被度%	●	●	○		○	○	
	ミヤコザサ50本の稈高計測	7月頃	○	○	○			
	スズタケ50本程度の稈高測定**		○	○	○			
	20cm～1.3mの実生の個体識別		●	●	○		△***	△***
	種名・高さの記録		●	●	○		○	○
	食痕の有無と対象種(シカ・ウサギ・その他)を記録		○	○	○		○	○
	1m×1mで20cm未満の実生個体の種名・高さの記録		●	●	○			
調査箇所数		5	2	12	未定	糞粒調査地で実施	糞粒調査地で実施	
その他	ミヤコザサの稈高分布調査	7月頃	○(200地点)					

- : 自然再生調査の結果を利用
- : シカモニタリング調査項目
- △: 現地状況等により決定(可能なら横田森林生態系部会委員が同行)
- *: 環境省事業。既存調査(環境省・名古屋大学等)を整理し、継続する地点を検討する。
- ** : 本数・計測方法については現地で判断(可能なら横田森林生態系部会委員が同行)
- ***: 個体へのナンバリングが可能な場合のみ